

1 社会的自立を前にした不安・心配とは

発達特性がある子ども・若者が「進学」や「就労」でどんな不安を抱えているのだろうか、我が子の成長を見守り支援し続けてきた親御さんたちはどんな心配があるだろうか。

(1) 本人が今の自分を語る

二次的問題に悩んだ学校生活、社会的自立を前に抱えている「不安」を綴っていただきました。

① フルタイムで働く自信がありません（Aさんの場合）

成人してからADHD、ASDもあると診断されました。
ずっと自分が怠けているだけ、無能なだけ、と思っていました。
対処法も調べられるようになり、薬を飲み始めたことで少し生きやすくなりました。



■ 小・中学校時代は、「早生まれだから」「不器用なだけ」と言われ続けていました。

小学校では、落ち着きがない、周りの子たちと同じタイミングで行動できない、自分の思い通りにならないと気が済まなくて暴れる、授業参観や家庭訪問のお知らせを親に渡さず大変なことになる、などがありました。が、「早生まれだから」で済まされていました。

中学校では、技術・家庭科、美術などの実技科目が苦手で、常に居残り、最終的に先生と2人きりでほぼ先生に作ってもらおう、という状態でした。そのせいで部活を休むことが多かったのと、暗黙の了解というものがわからずにごとごとく破っていたので、部活では先輩にいじめられ、同級生にも馴染めませんでした。

提出物も出さないし先生にも嫌われていたので成績は悪かったのですが、テストの点数は良かったので、周りには「不器用なだけ」と思われていました。

■ 高校時代、「やる気がない訳ではないのに…」部活を辞めました。大学にも進学したけれど…。

高校では数学が異様にできなくて、他の教科を一切やらずに数学だけ試験勉強をしても赤点、このままじゃ進級できないと言われました。だから1、2年の3学期は補習と追試であまり部活に行けず、行っても不注意で指示を聞き逃すことが多く、「やる気がないなら辞めろ」と顧問に言われました。

やる気がない訳じゃないけど、周りからそう見えるのは自分でもわかっていたし、どれだけ頑張っても顧問が望むような「やる気」を見せることができないのもわかっていたので、やりたい部活があって高校を選んだのに部活を辞めました。

進学した大学では「完璧主義・白黒思考が強く、模範解答以外は提出できない」と思ってしまい、模範解答が存在しない課題は提出できずにいました。1回課題を提出しただけで落単という科目も多いので単位が取れず、大学にもあまり行けなくなり、受診したら適応障害と診断されました。

■ 就活で自己分析をしたら、「私にはPRできることが何もない」と気付かされました。

就活の失敗で落ち込んでいたところに、親から「お前を必要とする企業なんかいない」と言われて完全に心が折れました。その後、通院くらいしか外に出ない引きこもり生活が数年間続きました。通信制大学に編入、実家に戻り地元のクリニックでADHDと診断され、ASDの傾向もあると言われました。

今は、二次障害や引きこもりで極端に体力が落ち、フルタイムで働ける状態ではないのと、就活がトラウマになってしまい、パート勤務のアルバイトだけ。常に金銭的な不安が付きまとっています。

② 「今は働くことはできるけど、スタートダッシュは無理だ」（Bさんの場合）

小学生の頃から不登校、周りから「こだわりが強い」「几帳面な性格」と言われていたので、母親と一緒にいった児童相談所で自分から発達障害の検査を希望しました。検査の結果、心療内科のSクリニックを紹介され「広汎性発達障害」と診断されました。



■ 中学校では、仲間の輪に入れないことから相談室登校、適応指導教室も利用していました。

「高校に行きたい」と思っていたので母親と一緒に進学できる学校を探し、体験入学にも参加しました。当時は普通高校とサポート校の違いすら分からずについて、受験した公・私立高校はいずれも不合格でした。

私が「大勢いるのは嫌だ、友だち付き合いは苦手だ」と親も理解していたので、少人数で（長い間不登校だったため）学習の支援を受けられると説明された私立通信制のT高校に進学しました。

■ T高校では、発達特性に配慮した先生方の対応で、友人とのトラブルを解消することができました。

Sクリニックで「T高校への進学が決まった」と報告したところ、次の受診で高校の先生（担任と教頭）を交えて、発達特性である「情報処理に時間がかかるので配慮すること」「こだわりが強いのでトラブル時には大人が丁寧に対応すること」など、私への配慮について主治医が話してくださいました。

T通信制高校では全日コースを選択、学習面でサポートしてもらったり、仲の良かった友人とケンカになった時には先生が仲裁に入ってくれたりしました。同級生が普通に接してくれたので集団も気にならなくなり、困ったときに言葉で伝えられるようになったおかげで、宿泊研修にも参加できるようになりました。

■ 今は、「働くことはできるけど、スタートダッシュは無理だ」と思っています。

卒業後は政治経済を学びたいと考えて指定校推薦で隣の大学に進学できました。でも、通学で朝早く起きることが出来ず最初から躓いてしまいました。「途中から授業に参加するのが嫌だ」というこだわりもあって結局退学してしまいました。気がついたら4年間もひきこもるきっかけになっていました。

20歳を過ぎていたので「働きたい」と考えていましたが、なかなか動き出せずにいました。母親がお世話になっていた病院のワーカーさんにB型就労のU事業所を教えてもらったのをきっかけに、市役所で相談支援事業所を紹介してもらい、早速U事業所で働き始めました。

U事業所での仕事はパソコンや家電の解体、農作業など。1年あまり働いた頃に公共施設の障害者雇用の話があり就職することにしました。毎日、一生懸命働いていたのですが、だんだんストレスがたまっていき、うつ状態になってしまい、トラブルもあって6ヶ月で辞めてしまいました。今はU事業所に戻ってB型就労で週5日働いています。短時間で多少自由が効く働き方が自分に合っている気がしています。

③ 「自分は普通の人と違っている」と思っていた（Cさんの場合）

中学・高校生の頃から「自分が普通の人と違っている」と感じるようになっていました。「嫌でも学校に行くけれども、自分は行けなかった。ルートから外れてしまった。」という思いが強かった気がします。



■ 中学生で学校環境の変化についていけなくなり不登校で引きこもるようになりました。

2年生から学校に行けるようになり高校に進学することができましたが、また引きこもり状態になってしまいました。私立通信制高校に転学して卒業できましたが、その後「進学」も「就職」できずに引きこもることになりました。

■ ひきこもりから数年、「ずっと家にいるのもよくない」と思っていました。動けませんでした。

親に「まずは、アルバイトしてみたら」と言われ働いてみましたが、3ヶ月と長続きしませんでした。今思うと「上司との関係が上手くいかず嫌いになったり、仕事が多くなり大変だったり」が辞めた理由。そもそも「働く心構えができていなかったかもしれない」と考えます。そして引きこもり生活に戻りました。

次に勧められたのが、「群馬県発達障害者支援センター」に通うことでした。自分の中では通うことにはちょっと抵抗感がありましたが、ずっと引きこもっていても何にもならないので、勇気を出して行ってみることにしました。支援センターで検査を受けて「発達障害の傾向がある」と言われましたが、手帳取得の必要性までの話にはなりません。そして相談員さんに紹介されたのが『サポステ』でした。

■ サポステにはいろいろな講座があって、それを利用することで働くことへの準備が進めていけているように感じます。講座を受ける中で他の人と関わり、コミュニケーションの練習の場にもなっています。

そして、定期的に行っている面談では適切な距離感を持って相談に乗ってくださっています。少しずつではありますが、サポステを利用することでいろいろな経験をすることができて、「働くことに向けて・社会復帰に向けて」前に進むことができている気がしています。

（2）親御さんが心配していること

我が子の成長とともに「進学」「就労」への心配は尽きません。親御さんの心配する気持ちを綴っていただきました。



① 我が子の働くことへ不安を感じています（D親の会）

E市の障害者センターで活動する「D親の会」では、発達障害の診断のあるなしに関わらず、中学生以上のお子さんのコミュニケーション・対人関係・行動・学習等で、さまざまな課題を抱えている親御さんを支援する会として活動して10年近くになります。

会員のほとんどのお子さんが小・中学生で特別支援学級や通級指導教室に在籍した経験があり、その成長段階で悩みを語り合い、支援方法などを学び合ってきました。それぞれの進学や就職の不安や課題に対しても互いに情報を持ち合い、経験を語り合うことで乗り越えてきました。

そして今、共通する課題が「我が子の働くことへの不安」です。自分たちで解決できない問題をどこに相談したらいいのか、どこの支援につながったらいいのか、皆さん不安を抱えています。

■ Fさん：周りの音や人混みに過敏な娘（20代後半）が仕事に就くことができないでいます。

娘は中学時代に別室登校でした。療育手帳を取る配慮をしてもらい、高等特別支援学校に進学して3年間終了後、「高校卒業の資格を取りたい」との希望で私立通信制高校に進学させました。毎日登校する必要がなかったので、何とか5年間かけて卒業することができました。23歳で卒業した後、就労移行支援事業所で働くことになれる訓練をしていましたが、職場で周りのことが気になって活動を続けることができず、今は週一回1時間程度の作業だけになりました。今でも電車に乗る事を嫌がり、車内では周りの視線や会話に過敏に反応して、幻聴と恐怖を感じて下を向いて固まってしまう。

医療機関は月1回「受診とカウンセリング」、小さい頃から療育を利用してきたのに、未だに有効な手立てが見えないことに不安を感じています。最近、家事の手伝いでおかずを作るようになってきていますが一人では生活はできないでいます。この先、自分がいなくなればどうやって生きていくのか心配で自立支援施設への入所も検討しましたが、作業所に出勤する事が出来ないと入所は難しいと言われてしまいました。

■ Gさん：障害者枠で働き始めた息子（20代前半）が1年で仕事を辞めてしまいました。

療育手帳を持っている息子は、特別支援学級から高等特別支援学校に進学しました。職場体験を経てB型就労しかないと思っていましたがハローワークの紹介で一般就労の障害者枠で就労することができました。

しかし、その会社は初めて障害者を雇用したらしく、コロナ渦の影響から業績回復に向けて徐々に働く時間が長くなっていきました。退職の直接の原因は通勤途中で交通事故に遭ったことですが、この先、どのように働き先を探していくのか不安があります。

■ Hさん：特別支援学校高等部3年生の息子の卒業後の進路が心配です。

職場体験で行った会社では、息子は休憩時間に話す相手もなく過ごしていたようです。作業場の油の匂いにも過敏に反応し耐えられなかったと、帰宅直後に作業着を脱ぎ捨ててしまいました。その後A型就労にいくようになってから話し相手もできた様子で、今は自動車運転免許の取得を目標に頑張っていますが、この先、仕事を上手くやっていけるのか心配です。

② 我が子の進学、就労への不安とその支援（E親の会 代表）

障害のある子どもをもつ親として、ライフステージのその場、その場で悩み、それを乗り越えようとしています。その時々で良き支援に出会えることは、子どもにとっても親にとっても安心につながります。

特に子どもの進路については、多くの悩みを抱えてきました。中学卒業時、高校卒業及び就労時などの節目の時期での不安や苦悩は大変大きく、その時々で適切な支援があれば救われたかもしれないと思う事例もたくさんあります。



- 普通高校に進学を希望し受験したが落ちて、しかたなく通信制高校に入学。
⇒ 本人の状況と進学先の情報を理解し見通しが立っていれば、納得の選択ができたかもしれない。
- 発達特性のために通常の高校受験や大学受験が難しい。
⇒ 特性への配慮があることを知っていれば、受験ができたかもしれない。

○普通高校に入学したが、不登校になり退学。

⇒ 入学後の相談や通級指導が充実していれば、不登校にならなかったかもしれない。

○高校、特に通信制高校を卒業したが、就労に結び付かず家庭で過ごすことに。

⇒ 卒業後の進路相談・指導、就労支援の知識等があれば、適切な就労につながったかもしれない。

○障害があるが、子どもに合う就職先をどのように探したらよいか分からない。

⇒ 相談支援センターなど福祉の支援を知っていれば就労支援につながったかもしれない。

以下、親として子どものために何ができるかを日々悩む中、支援の在り方についての私の思いです。

■ 中学卒業後の進路選択への準備は、小学校の時点から！

発達障害のある子どもの場合、本人の状況や進路を見据えて、学級の選択が進路選択の始まりです。

小学校での面談で、進路を見据え中学校でどの学級（通常学級、知的特別支援学級、自閉症・情緒特別支援学級等）が子どもに適しているかを相談できるかが重要です。

担任や特別支援教育コーディネーター、管理職が話しやすく、熱心で知識豊富であった場合には、子どもに合った進路選択ができていることが多いと思います。

■ 中学校3年生までに受験での不安をどう解消するかが大事！

親が進路に関する知識が少ない場合、もしくは、子どもへの期待が大きくなり状況とかけ離れている場合、進路選択がうまくいかないケースが多いと思います。

進学先についての知識を得ている場合は、たとえ一つ受験がうまくいかなかった場合でも、次の手立てに移ることができます。学校に期待することは、進路について「この高校は無理です」というのではなく、子どもの状況と進路先の情報を丁寧に説明し支援してほしいと思います。

普通高校、実業高校、単位制高校、フレックス高校、通信制高校、通信制のサポート校、さらには通級指導をどのように受けられるかなど詳しい説明があると安心できます。

E親の会では、進路について経験談を伝え、そのメリットデメリットを情報共有できるようにしています。

■ 高校に入っても安心できません！

高校に適應せず、支援も受けられないまま、不登校になり高校中退ということもよくあることです。

また、普通高校には通うことが難しく通信制高校を選んだ子どもが、卒業後何をしたらいいのか分からなくなるケースもあります。

この時点で、子どもに発達障害があることを知らなかったという場合もあります。

どこにもつながっていない先の見えない状況に、悩むご家族も多いことでしょう。

こんな時につながれる場所があったなら、と切に思います。

また、発達障害のある子どもにとって、福祉の手を借りやすい環境があればと思います。医療や福祉へのつながり方やそのメリットを情報として共有することで、見通しが立ち安心できる人も多くなると思います。



群馬県内で活動する発達障害児者支援団体・親の会を地域別に掲載されています。

<https://www.pref.gunma.jp/page/186183.html>

